

# 西宮えびす

平成二十七年 夏号



吉備鬼貫句碑(表大門西)

## おこしや祭

## 夏えびす

## 西宮まつり

文化研究所だより

西宮史談会百年、西宮市市制九十年  
阪神タイガース八十年、西宮神社戦災七十年  
阪神淡路大震災二十年



吉備句碑(南門北)

### ◎「渡御祭 風祭り」彫刻奉納

一月二十五日、秋の渡御祭、風祭りの祝詞を題材にされた彫刻が奉納されました。柴田芳弘、初田隆、井下石泉の三氏の合同作品です。社務所ロビーに展示しております。九時から十七時ころまで自由に観ていただけます。



### 神社社会館表玄関 植栽おもてなし

四月十七日、車寄せの東側、最も目につく植込みが、年と共に徒長したり弱っていたものを一新しました。境内に初めての「唐招霊(とうおがたま)」の木五本や、乙女椿二本、お多福南天などで「おもてなし」の玄関の外の装いは整いました。

### 編集後記

今年は何年記事の多く見られる年です。阪神淡路大震災から二十年、まだ記憶に新しい。大東亜戦争終戦七十周年の年としても様々な内外の出来事が報道されています。七十年前は西宮神社にとって、また西宮市にとっても大震災とは比較にならないほどの大災害の年でもありました。空襲、これは明らかに連合軍による「人道に対する罪」であり、戦争法規違反の無差別殺戮であったにもかかわらず(原爆投下同様)、日本人は天災の様に捉え諦め、そしてそこから立ち上がってきました。今号に載せた特集、タイガース八十年も、市制九十年も、皆同様に懐かしい思い出のように編集してみました。それぞれの思いで御覧いただければと思います。

twitterで西宮神社の最新情報を  
[http://twitter.com/nishi\\_ebisu](http://twitter.com/nishi_ebisu)

西宮神社 公式サイト 検索  
<http://nishinomiya-ebisu.com>

西宮神社  
公式サイト  
QRコード



NISHINOMIYA EBISU  
平成二十七年 夏号

発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市家町1-17 電話 0798-330321 FAX 0798-6655355

編集/文化課 印刷/小西印刷所



青銅神馬贊、銅歌碑(手水舎横)

新たに説明版が設置された歌碑、句碑など。詳細は10頁。

# とおかし

全国のえびす神社の総本社である西宮神社は二月十日の十日えびすが有名ですが、毎月十日にも十日参りが行われています。十日参りの祭典は、午前十時から本殿において執り行われ、官司が国家の安泰、氏子崇敬者の繁栄を祈願する祝詞を奏上しています。

この毎月の十日参りの日に合わせ、その季節やえびす様に因んだ創作和菓子、十日菓子を「とおかし」と名付けて、十日参りに御参列頂いた方に撤下品として授与しています。

又、境内神池池畔の「おかめ茶屋」にて、二箱五百円にても授与しています。

平成二十七年度は、当社からえびす様の御霊をお分けした全国各地の分霊社の地域を題材に、調製致します。

四月

和歌山県  
白浜戎神社



五月

群馬県  
桐生西宮神社



六月

静岡県  
焼津西宮神社



七月

山形県  
西宮戎神社



八月

岐阜県  
中津川西宮神社



形状・色使いは、多少変わることがあります。ご了承ください。

## 文化研究所だより(七)

### 土佐国 室戸におけるえびす信仰

昨年末、江戸時代後期の文政五年(一八二二)に記された「土佐国佐喜之浜西宮太神宮由緒書」(写真1)という史料を入手いたしました。現在の高知県室戸市佐喜浜町(地図)のえびす信仰にまつわる大変興味深い内容です。以下現代語訳をご紹介します。



そもそも、佐喜浜に西宮太神宮の御神影をお祀りしている由来は以下の通りである。文政五年五月、浦普通請入用銀について、佐喜浜の浜屋吉助、井筒屋小三郎が泉州商人へ銀二貫借用を依頼したが断られ、大坂雑喉場神崎屋平九郎の弟彦兵衛へ相談したところ快諾を得、銀を調達でき、米穀を購入、佐喜浜へ積み送った。



【写真1】「土佐国佐喜之浜西宮太神宮由緒書」

その後、程なくして普請も完成し、借用銀のいきさつを浜の者たちへ話したところ、一統大いに喜んで、「今後は浜へ水揚げされた魚のうち、一カ月の前半十五日の分はすべて神崎屋平九郎へ積み送ろう。」という相談がまとまった。

ところが、漁獲量が少なかった。そこで、佐喜浜の浜屋喜三郎より神崎屋平九郎へ手紙を送り、浜での相談の様子を報告し、大漁を西宮太神宮へ祈りたき旨依頼した。その手紙は十二月二十五日に神崎屋方へ到着、彦兵衛は手紙を見て大いに喜び、早速翌日に代参人へ白銀十二匁を持たせて西宮へ遣わし、神社にて佐喜浜大漁祈禱を執行したところ、不思議なことに祈禱を終えた直後の十二月三日には、浜屋喜三郎の網にさし(鱈の幼魚)五千七百尾がかかったのはじめ、鱈・鱈(サメ)なども相応に獲れた。

それらを早速神崎屋平九郎方へ積み送り、その後浜一統でも相応の漁獲があったのでそれも積み送ったところ、平九郎・彦兵衛兄弟は大変喜び、とくに彼らの親である平右衛門は喜びの余り「私は今年七十七才になり、先祖の平九郎から現当主の平九郎まで四代九十年になるが、今回のような御客方のご恩顧に預かったのは初めてである。家の面目であり、子孫長大の基でもある。これはみな市の御神のおかげである。」と言って、七十年来秘蔵していた西宮太神宮の御神影を彦兵衛へ与えた。彦兵衛は大変喜んで、「この御神影を佐喜浜へ祀れば、浜一統ますます大漁となるでしょう。」と言って、御神影に神酒四斗入菰包一樽を添えて浜



【写真2】現在の佐喜浜恵美須神社

屋吉助へ送った。それが佐喜浜にてお祀りしている御神影である。西宮太神宮は非常に靈験のある神様であり、ますます信心し、怠ることなく大漁をお祈りすべきである。ああ、おそれ多いことである。

文政五年 壬午 十二月廿六日

以上がその内容です。霊験譚の内容もあり、多少留保すべき点がありますが、当時においても、室戸岬付近の漁民にまで西宮神社が漁業の神として知られていたことがうかがえます。借銀先を泉州や大坂雑喉場商人に求めていることから、日常的な海産物の取引関係が存在し、そのために同神社の存在が知られていたのでしょうか。いっぽうの神崎屋のほうでは「市之御神」のおかげであると捉えています。漁民は漁業神として、商人は商売繁盛の神として認識し、お祀りしているという、えびす信仰のあり方が生業によって多様であることを示している点においても興味深い史料です。なお、神崎屋から譲渡された御神影が祀りされているかは不明ですが、現在佐喜浜には恵美須神社が鎮座しており(写真2)、このお話につながる神社ではないかと思われま

(西宮神社文化研究所 主任研究員 松本和明)

# えびっさんの夏まつり

夏のえびっさんは皆で楽しめるおまつりがいっぱい！古く西宮では、この日を境に浴衣を着始めたといわれる六月十四日の「おこしやまつり」。また、えびっ様の荒御魂を祭る、あらえびす神社の祭典を中心に、七月を通して様々な催しを行う「夏えびす」。ふるさとの風物詩として地元の氏子さんを始め、沢山の皆さまのご参拝をお待ちしています。

## 西宮神社 六月〜十二月行事予定

- 六月
  - 十四日 十四時 御輿屋祭り(おこしやまつり)
  - 三十日 十六時 夏越大祓(茅の輪くぐり)
- 七月
  - 五日 九時 あらえびす神社奉納子供相撲大会
  - 七日 夕刻から 七夕 天の川
  - 九日 十六時 あらえびす夜まつり 宵宮
  - 十日 十六時 境内末社 沖恵美酒神社祭
  - 十六時 あらえびす夜まつり
  - 十四日 十時 境外末社 住吉神社例祭
  - 十七日 十時 境内末社 市杵島神社祭
  - 二十日 十時 夏祭 湯立神楽
  - 十八時 えびす万燈籠
  - 二十三日〜二十四日 夏休み子供体験学習会
  - 三十日 十時 境外末社 住吉神社夏祭
  - 十六時 住吉神社境内縁日舞台
- 八月
  - 二十四日 十二時 境内末社 火産靈神社祭
- 九月
  - 二十二日 十時 敬老の日祭
  - 十二時 境内末社 庭津火神社祭
  - 十七日 十七時 西宮まつり 宵宮祭
  - 十八時 奉納演芸会
  - 二十二日 十時 例祭
  - 二十五日 十五時 稚児行列
  - 十七時半 子供樽みこし
  - 二十三日 十時 渡御祭
  - 二十七日 十八時 観月祭
- 十月
  - 三日 九時四十分 宮水まつり
  - (市内久保町の宮水発祥の地記念碑前)
  - 土時半頃 醸造祈願祭
  - 十二時 「西宮酒くらルネサンスと食フェア」
  - 十四日 十時 「西宮酒くらルネサンスと食フェア」
  - 十五日 十時半 御神影頒布始祭
  - 十七日 十時 神嘗奉祝祭・神宮遙拝
- 十一月
  - 三日 十時 明治祭
  - 二十日 十時 誓文祭
  - 二十二日 十四時 造宮記念祭
  - 二十三日 十時 新嘗祭
- 十二月
  - 二十二日 十時 冬至の日祭
  - 二十三日 十時 天長祭
  - 二十七日 十時 煤払祭
  - 十二時 逆さ門松設置
  - 十六時 大祓
  - 十八時 除夜祭

## 関西で一番早い夏まつり！ 御輿屋祭り

このおまつりは当社の創建に関わる大切なおまつりです。昔えびす様の御神像が海からご出現なされ、西宮鳴尾の漁師が家にお迎えしお祀りしていたところ、ある晩「西の方に良き処があるのでそこにお祀りするように」との託宣があり、村人一同でえびす様を御輿にのせて出発しました。途中ひと休みされたえびす様は、居眠りをされてお目覚めになりません。困った漁師はえびす様のお尻をひねって起こして、西へ進み、現在の宮地に到着されたといわれています。このお休みされた場所が今も残る「おこしや跡地」で、おこしやまつりの御旅所となります。



はつよさき 午後二時

おこしやまつり 午後三時頃

かんぎよはつよさき 午後九時

おこしや跡地を出発する祭典。お先太鼓と提灯の明かりに導かれ本殿へ還幸します。

かんぎよはつよさき 午後九時半頃

えびす様の御神霊が本殿にお通りに還御祭



## 夏の十日えびす 夏えびす

正月の十日えびすよりちよと半年後にあたる七月十日は境内末社、沖恵美酒神社(別名あらえびす神社)の例祭日です。沖恵美酒神社はえびす様の力強く活動的な荒御魂をまつる神社で、七月中「夏えびす」として境内は賑わいます。

### 七月五日(日) あらえびす神社奉納子供相撲大会

幼稚園の部 午前九時  
小学生の部 午後一時



子供相撲大会

### 七月七日(火) 七夕天の川

夕刻〜午後九時

たなばたの夜、拝殿前の神池に天の川が出現します。願い事を記した短冊を参道の笹竹に結び、えびす様と星々にお祈りしましょう。(天の川は十日、二十日夕刻も実施します。)



短冊を結んだ笹竹

### 七月九日(木)・十日(金) あらえびす夜まつり

午後四時〜午後九時

沖恵美酒神社祭の前夜と当夜、境内松林を中心に行われます。当社と縁深いエビスビールの飲み比べが行われ、当地グルメの屋台が軒を連ねます。特設舞台ではゲーム大会や福引きも行われ、大人も子供も楽しめる内容となっています。



境内 松林

### 七月十日(金) 沖恵美酒(おきえびす)神社祭

午前十一時

東京えびす講、時の川柳社を始め多数の崇敬者参列のもと祭典が厳肅裡に斎行されます。あらえびす様と本殿のえびす様に両社参りをされて益々の福をお受けください。

### 七月二十日(月) 夏祭

午前十時

暑気払い、無病息災を願い夏祭を斎行します。祭典後、拝殿前で湯立神楽が行われ、巫女が世で湯しぶきをふりかけ、参拝者の災厄を払います。



湯立神楽

### えびす万燈籠

午後六時

本殿で万燈籠祭を斎行。引き続き点灯式が行われ、境内三〇基の石燈籠と約五〇〇〇個のろうそくに神火が灯され、光の列を創ります。境内は幻想的な雰囲気になります。



えびす万燈籠

### 七月三十一日(金) 境外末社 住吉神社夏祭

午前十時

子ども舟だんじり巡行 午前十時半頃

縁日屋台 午後四時〜午後七時



子ども舟だんじり巡行

境内末社、住吉神社は御前浜を臨む市内西波止町に鎮座しています。夏祭には、舟形のだんじりが子ども達に曳かれて住吉神社周辺を巡行します。また夕刻からは境内に縁日屋台が開かれ、大勢の子どもで賑わいます。

七日・九日・十日・二十日は境内で風鈴市が開催されます。

◎毎月十日・二十日 十時より旬祭を斎行しております。どなたでも参列いただけます。時刻までに拝殿にお越しください。

◎毎朝八時半から九時より大祓詞を奏上げて祈禱を行っております。どうぞご参加ください。

※各行事の時間は変更になる場合があります。

# 西宮史談会発足百年

## 西宮市市制九十年

## 阪神球団創設八十年

## 西宮神社被災七十年

## 阪神淡路大震災二十年

当社の関係団体の一つに、西宮文化協会があります。

今年が西宮文化協会の前身の「西宮史談会」が大正四年に発足して百年の年になります。

また西宮町から西宮市へと市制がしかれた

大正十四年から数えて九十年にもあたります。

さらに阪神タイガース創設八十年でもあります。

そして戦後七十年、

節目の年と言われておりますことは、

皆様よく御存じの事と思います。

また、記憶に新しい節目の年としては、

阪神淡路大震災二十年があります。

これは昭和二十年の戦災より丁度五十年目でありました。



大正15年頃の西宮神社本殿

(西宮市情報公開課・提供)

大正14年4月1日の市制発足記念式典(西宮神社境内)



(西宮市情報公開課・提供)

### 西宮市市制九十年

西宮市が発足した九十年前の大正十四年四月一日には、市長はじめ主立ちたる方々が先ず西宮神社に奉告参拝し、境内西広場で記念式典を行い市政を始められたと伝えられております。

市制九十年に併せ、「西宮市の昭和(樹林舎)」、「ふるさと西宮」(郷土出版)が出版されます。過去には、昭和五十年に「西宮懐古写真集」、昭和六十三年に「写真集 明治大正昭和 西宮」も出ています。

昭和9年御屋根葺替後の西宮神社本殿



### 西宮史談会 発足百年

西宮史談会はいはゆる地元名士の集まり、学者文人の集まりという性格の会であったようで、現在の大きな組織である西宮文化協会とは少し違っておりますが、発展的に引き継いだ形になっております。

西宮文化協会では月報会報とは別に、「西宮」「西宮文化」という雑誌を発行し、郷土史、文化の発掘に貢献しています。

## 西宮文化

第1号 昭和38年6月

西宮のことば	2
西宮の文化人(4)	
野田忠誠のことば	吉井良典 3
西宮の生物誌 No.1	
ハンゲショウー半豆生	吉井良典 4
夢の西宮を想う	南野三郎 5
日本最初の民間飛行	春村茂樹 6
甲山の成因	藤田和夫 7
西宮のお宮とお寺	
下大部の八幡社	8
西宮カメラ・メモ	
瓦林で発見した供養碑	堀内 治 9
西宮随筆	田岡善造 10
西宮町政資料	11
西宮文化協会だより	12
表紙題字	原谷 鶴村

1

西宮文化協会

### 阪神球団創設八十年

阪神タイガースは、昭和三十七年の優勝報告以来、ペナントレース開幕前に欠かさず必勝祈願に参拝されるようになりました。



南門前で歓迎

優勝パレード





氏子青年会「若戎会」の  
だんじりが  
三日間を通して  
市内を巡行します。



当社で最も重要なお祭りである、  
例祭の前後三日間を合わせて「西宮  
まつり」と呼び、この期間は祭典  
を中心に様々な催しが行われ西宮  
の町は大いに賑わいます。

平成二十七年

# 西宮まつり

九月 二十一日 (月)	午後五時 午後六時	宵宮祭 奉納演芸会
九月 二十二日 (火)	午前十時 午後三時 午後五時半	例祭 稚児行列 子供樽みこし
九月 二十三日 (水)	午前十時 正午頃 午後五時頃	渡御発輿祭 陸渡御 御旅所祭 海上渡御 本社還御祭



**渡御祭**  
氏子四地区が輪番で担当、今年の当番は浜脇地区！

**発輿祭**  
えびす様の御神霊をお神輿に運す最初の神事  
神職や氏子総代をはじめ祭典委員、童男八乙女・童女ら日本伝統の装束を着けた供奉者と半被姿の神輿奉仕者らが参列し、渡御祭の無事斎行を祈願します。えびす様の御神霊をお神輿にお遷し、供奉者らの召立が行われます。

**陸渡御**  
お神輿を中心にご奉納の行列が浜脇地区を神幸  
神輿奉賛講社の蒲団太鼓を先頭に行列を組み西宮神社を先頭に行列を巡行し、ご奉納の御神霊をお神輿にお遷し、供奉者らの召立が行われます。地域の氏子らが見守るなか、華やかで賑やかな神幸が続きます。

**御旅所祭**  
お旅所にお神輿を留め  
氏子町内の繁栄を祈願  
新ヨットハーバー  
前広場をお旅所に  
して、お神輿を奉  
安し祭典を行います。  
今年当番の浜脇  
地区から選ばれた  
童女の神幸が奉  
納されます。

**海上渡御**  
御座船にえびす様を遷し  
御前の浜を船団が神幸  
お神輿をのせた御座船を中心に十数艘の船団が新西宮ヨットハーバーを航行します。御前浜沖で「かさまつり」を斎行。八乙女による清祓が行われ、西宮の海上安全を祈願します。また二艘の産宮船はえびす様のご出現なされた和田岬に向かい、縁ある和田神社・三石神社 柳原蛭子神社へ参拝します。

**本社還御祭**  
えびす様の御神霊が  
本殿にお遷りになる神事  
夕刻、海上渡御を終えた二団が西宮神社に帰着します。お神輿のえびす様を本殿にお遷しする「還御の儀」を行い、渡御祭の無事斎行と感謝を奉告します。三日間の長きにわたる西宮まつりもこれで終了となります。

※各行事は天候等により変更となる場合があります。予めご了承ください。

戦災後、仮で建てられた西宮神社本殿



昭和20年、西宮神社本殿焼け跡



戦後七十年は即ち、西宮神社が戦災で大きな被災をした年から七十年ということになります。  
戦災からの復興、渡御祭の再興、本殿復興へと苦難の、また希望にも満ちた年月が続きます。  
我が国の歴史二千六百年の歴史に比べればわずかな七十年かもしれませぬ。敗戦からの、戦後レジームからの脱却も長い目で見ればゆかねばならないのかもしれない。

## 西宮神社 被災七十年



昭和36年 西宮神社本殿

崩れ落ちた大棟梁



商店街の様子



西広場の絵馬殿も倒壊



**阪神淡路大震災  
二十年**  
平成七年一月十七日早朝、泰平の眠りを覚ますような大地震が起きました。大正十二年の関東大震災より七十二年、大東亜戦争末期の大空襲による本殿被災からはちょうど五十年目の年でした。  
あの日から早や二十年が経ちました。  
突然の深い悲しみの日々、時には人の優しさに安らぎを覚えることのできた非日常の日々。様々なことを学ばせていただきました。  
神社会館では、十七日より一月末まで、被災された町の方々最大四百人が避難生活を過ごされました。

神社会館避難所

# えびすトピックス

## 境内末社松尾神社 遷座祭

平成二十三年の本殿復興五十一年記念事業で本拝殿修理が完了したのち、境内末社の修理補修を順次行つてまいりました。そして三月末の、松尾神社の修理、遷座祭を以つてこれも完了いたしました。



松尾神社

## 阪神タイガース、ペナントレース必勝祈願

恒例の必勝祈願祭が三月十三日、球団オーナー、社長、監督以下全選手が参列して執り行われしました。秋の優勝報告の参拝が待たれます。また今年も、武庫川女子大学附属高等学校書道部生徒が球団歌「六甲嵐」一番の歌詞を作品にしたものを、祈願祭終了後、和田監督へ贈呈しました。



和田監督へ書作品の贈呈

## 講員参拝見学会 三月十八日

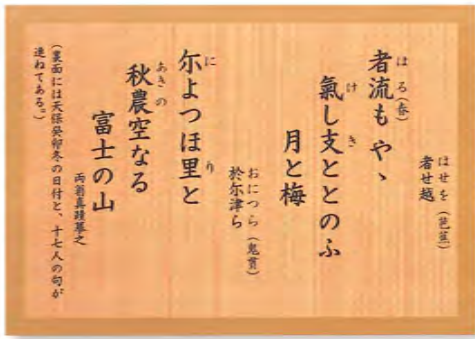
西宮神社には本えびす講社、日供講社、末社講社などの崇敬講社があります。此の講員さんを対象にした研修親睦の旅が行われました。第一回目の今回は、近江湖東の多賀大社正式参拝をはじめ、神仏霊場めぐりを企画しましたところ、六十六名の御参加を得て盛会裏に終えることが出来ました。この参拝を機に、淡路市多賀の伊弉諾神宮にも参拝をされたという講員の方のお話しも、後日伺いました。



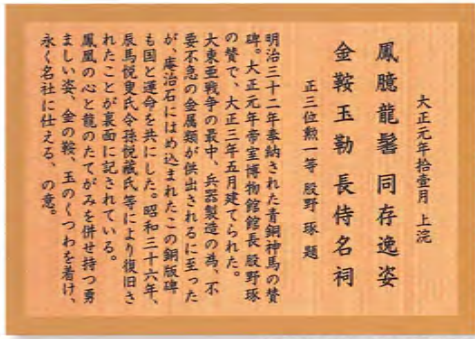
講員さん参加の多賀大社への研修親睦旅行

## 歌碑・句碑説明版を設置

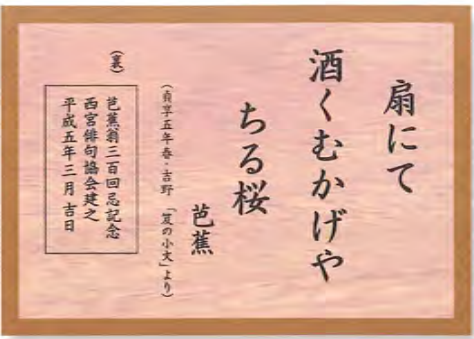
一昨年は神馬、瑞寶橋などに説明版を設置しました。今年は表紙写真の様に、歌碑、句碑など四箇所に作りました。



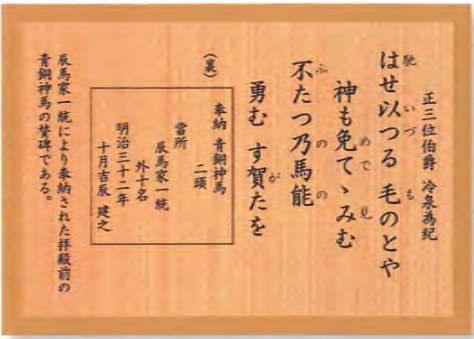
(裏面には氏孫孫の日の付と、十七人の句が述べらる)



設置された歌碑、句碑などの説明版



(前年五年春 吉野 一の小文より) 芭蕉翁三百四忌記念 西宮俳句協会建之 平成五年三月吉日



(巻) 春納 青銅神馬 當所 二頭 辰馬家一統 外十名 明治三十二年 十月吉辰 建之 辰馬家一統により春納された拝殿前の 青銅神馬の像である。

### 第四回

## 西宮神社えびすの森 春休み子供観察会

西宮神社境内のえびすの森は、兵庫県より天然記念物に指定されている貴重な森です。この市街地に残された貴重な自然を保全し、後世に残していく試みの一環として、えびすの森観察会を開催してきました。

東北沿岸の大津波の被災地では、防災林を育てる試みが復活しています。自然観察や森での遊びを通して将来の森の担い手である地域の子供たちに、森林と共生してきた日本人の知恵、えびすの森の大切さを感じていただくこと、今年も三月三十日に開催いたしました。



「えびすの森春休み子供観察会」に参加した子供たち